

やなせたかし ぼくらはみんな生きている

絵本作家のやなせたかしさんは平成25年10月13日、心不全のため94歳で亡くなりました。アンパンマンの声を務める戸田恵子さんは「やなせ先生こそがアンパンマンそのものでした。いつでも優しさで私たちを包んでくださり、分けあうことを教えてくださった。」と述べています。

アンパンマンの正義と優しさ

ヒーローとしてのアンパンマンが誕生した背景には、やなせの従軍経験があります。戦中はプロパガンダ製作に関わっていたこともあり、とくに戦いのなかで「正義」というものがいかに信用しがたいものかを痛感しました。しかし、これまでのヒーローは「正義」こそ口にするが飢えや空腹に苦しむ人間へ手をさしのべることはしませんでした。戦中、戦後の深刻な食糧事情もあり、当時からやなせは「人生で一番つらいことは食べられないこと」という考えをもっていました。50代で「アンパンマン」が大ヒットする以前のやなせは売れない作家であり、空腹を抱えながら「食べ物が向こうからやって来たらいいのに」と思っていたといいます。こういった事情が「困っている人に食べ物を届けるヒーロー」という着想につながりました。アンパンマンと「正義」というテーマについて、やなせは端的に「『正義の味方』だったら、まず、食べさせること。飢えを助ける。」と述べています。

また別のインタビューでも、やはり「究極の正義とはひもじいものに食べ物を与えることである」と述べています。さらに主人公をあんパンにした理由を「外の皮はパン＝西洋、内側はあんこ＝純日本。見た目は西洋でも心は日本人である。」と解説しています。かつて、たびたび起こった「顔を食べさせることは残酷だ」という批判にも、「あんパンだから大丈夫です」と冗談めかして反論していました。

空腹の者に顔の一部を与えることで悪者と戦う力が落ちると分かっているにもかかわらず、目の前の人を見捨てることはしない。かつそれでありながら、たとえどんな敵が相手でも戦いも放棄しない。これらの点について「ほんとうの正義というものは、けっしてかっこうのいいものではないし、そしてそのためにかならず自分も深く傷つくものです」第1作『あんぱんまん』のあとがきよりと、自身が絵本のあとがきで語っています。



そしてアンパンマンは食べられることはあっても、食べることはありません。それは単純に(カレーパンマンやしよくぱんまんとは異なり)アンパンマンが食事をする場面が一度も描かれないことにも現れています。「飲食」が大きなテーマとなった世界で、本来の「食べる」と「食べられる」の食物連鎖的な循環を裁ち切り、自らを食事としてのみ差し出す自己犠牲こそがアンパンマンのヒーロー性を支えています。(ウィキペディア「アンパンマン」より)

アンパンとちくわ

さらにアンパンマンに関わるやなせさんのエピソードを2つ紹介します。

一つ目は、やなせさんが小さいときのことです。1人で遠くまで遊びに行って、財布を落としてしまった。周りは知らない人ばかり。日は暮れ、お腹もすいてくる。しかたないから、駅まで行って、線路をずっと歩けば家に帰れると考えたやなせさん。なんとか駅まで来たけれど、心細くて悲しくて死にそうなほど。「やなせくん」と呼ばれた。見ると友だちのK君とお母さんが、立っていた。やなせさんは、ほっとしてうれしくて、二人が光に包まれているように見えたそう。

K君のお母さんがおなかのすいたやなせさんを買ってくれたのがアンパンだったのです。

もう一つは大人になってからのお話です。

戦争にいて帰ってきたやなせさん。そのころの日本には食べる物がたりなくて大変だったそうです。食べ物も闇市というところで売られていました。ある時、やなせさんは闇市でおでんの手に入るの材料を手に入れることができました。おでんを作って一緒につとめていた女性と食べたそうです。ところがそのおでんでやなせさんは食中毒になってしまったのです。材料のちくわが悪かったようなのです。

しかし、女性の方は平気だった。なぜでしょう。…女性はやなせさんに栄養のあるちくわを食べさせようとして、自分は大根ばかり食べていたからです。やなせさんは1年後、この女性と結婚しました。今の奥さんです。食べ物が不足していたとき、自分は栄養の少ない大根を食べても他の人に栄養のあるところを食べさせる。K君のお母さんのアンパンもおくさんの愛情も本当の「正義」だとやなせさんは思ったそうです。



いのち見つめて…やなせさんの想い

2013年7月6日に行われた劇場版アニメ「それいけ!アンパンマン とばせ! 希望のハンカチ」の初日舞台挨拶では、「なんとか今のところは死なないでいるんだけど、まもなくだね。病院からはあと2~3週間しか生きられないって言われてる」「死ぬ時は死ぬんだよ。笑いながら死ぬんだよ。そうすれば映画の宣伝になる。死ぬまで一生懸命やるんだよ。ハハハ」などと笑いながら話っていたそうです。

アンパンマンの正義は、やなせさんの戦争体験や貧しい生活に由来することは前述しましたが、さらに詳しい事情があります。太平洋戦争の最中、自らも中国に駐留した経験を持つやなせさんですが、若くして戦死した弟への想いは、より深く重いものがあるようです。「アンパンマンのマーチ」の歌詞にある「今を生きること 熱いところ燃える」「忘れないで夢を こぼさないで涙 だから君は飛ぶんだ どこまでも」「そうだ 恐れなくてみんなの為に 愛と勇気だけが友達さ」などの歌詞は、特攻機に乗り込み敵艦に突っ込んだ弟への想いの表れと推察されます。

アンパンマンが大ヒットしても、やなせさんは質素な生活スタイルを崩しませんでした。そして身寄りのない子、難病に苦しんでいる子、勉学に励む学生など若い世代への援助や寄付を惜しみませんでした。これらの人々に億単位の寄付を行ってきた裏側には、戦死した実弟への強い想いや数々の病に苦しんできた自身のつらい体験に基づいているのでは…と想像します。やなせさん自身は、戦争体験についてはそっと自分の胸にしまって、ほとんど語ることはありませんでした。しかし今年7月頃、死期を悟ったやなせさんは、その想いを後世に伝え残すために「やなせ たかしの平和への思い ぼくは戦争は大きらい」という本に綴りました。そしてやなせさんの死後、12月16日の出版されました。

ぼくらはみんな 生きている 生きているから 歌うんだ ぼくらはみんな 生きている 生きているから 悲しいんだ
手のひらを太陽に すかしてみれば まっかに流れる ぼくの血潮(ちしお)

ミミズだって オケラだって アメンボだって みんな みんな生きているんだ 友だちなんだ

いのち見つめるやなせさんの温かい眼差しが、「手のひらを太陽に」の作詞にも感じることができます。

<引用、参考文献> 東スポWeb 「やなせ たかしさん：アンパンマンのマーチに秘められた亡き弟への思い」

ウィキペディア「アンパンマン」「やなせ たかし」 TOSS 小学校/中学年/道徳/生き方「正義の味方とは…」 齋藤一子